

第 30 回仙台城跡調査指導委員会 会議録（要旨）

- I. 開催日時 平成 25 年 10 月 22 日（火）午後 3 時 05 分～午後 5 時 15 分
- II. 開催場所 庄建上杉ビル 5 階会議室
- III. 出席者 (委員) 岡田 清一・平川 新・岡崎 修子
藤澤 敦
(宮城県) 天野 順陽（文化財保護課 技術主幹）
(事務局) 【教育局】
生涯学習部長 山口 宏
文化財課長 吉岡 恭平
仙台城史跡調査室長 工藤 哲司
文化財課調査調整係長 斎野 裕彦
主査 佐藤 淳
主査 渡部 紀
主査 嶋崎 要悦
主任 庄司 義雄
主任 熊谷 智顕
主事 関根 章義
- 【建設局】
建設局公園課長 佐々木 亮
公園課青葉山公園整備室 和泉麻里子
- 【仙台市博物館】
仙台市博物館 菅野 正道
- (報道機関) (2 名)
- IV. 傍聴人 5 名（復旧工事関係業者 3 名）

※議事録署名：議長（岡田委員長）は平川副委員長を指名

V. 議事内容等

【報告】

1. 酉門石垣について

議長（岡田委員長） 報告1の酉門石垣の発掘調査の成果と復旧工事について、事務局から説明をお願い致します。

文化財課関根主事より説明

(質疑応答)

議長（岡田委員長） 酉門石垣の栗石に関しては、土を多く含むものと含まないものと新旧関係を、根石については、今見えている石が根石だろうということ。石垣は、大別3類、細別8類に目地や詰石の観察をもとに分けています。報告に、質問、意見をお願いします。

栗石は、資料1) - ②の図11で、土を含まない栗石が下にあるので古く、土を多く含む栗石が新しいのが分かります。しかし、図12を見ると、下の方に土を含む栗石があるように見えます。新旧関係か、それとも別のものですか。

関根主事 石の中に大量に土が混じる場合は、一緒に裏込として入れている可能性があります。土を含む量が少ない場合は、地山や盛土の土が流入した可能性もあります。図12では下に土を含む栗石が見えますが、これが別の栗石層か、上部と一連のものかは、解体を進めながら検討したいと考えています。

議長（岡田委員長） 酉門に関しては、1段目の石が根石と考えていいのですか。

関根主事 深く掘ると石垣前面の地盤を弱くする可能性があるのですが、これ以上は掘りませんが、F面及びG面は、1段目に見える石材が根石の可能性が高いと考えています。

平川副委員長 根石のずれや沈下は、今回はないのですか。

関根主事 ずれや沈下は、丁張をして検討したいと考えています。

平川副委員長 もし、ずれていけば元に戻して、基礎を固めるのですか。

工藤室長 根石については、経年変化でずれていたとしても、安定している

と判断ができれば、そのまま使うことを考えています。中門でも根石ないし基部に歪みが出ていましたが、そのまま使って積み上げました。同様に根石は極力残す方向で検討したいと考えています。

議長（岡田委員長） 石垣の分類は、非常に分かりやすかったのですが、栗石との対応関係は、どこまで分かっていますか。

関根主事 資料1) - ④の図 25 に一部示しています。他の部分に関しては、解体を進めながら今後検討したいと考えています。

天野技術主幹 石垣に大きな杉の根が食い込んでいましたが、対応は今決めた方がいいと思います。あのままでは根が腐って中が空洞になり、石垣が崩れる心配があります。根を取り除くには、残っている石垣を解体する必要がありますが、整備をしても後々壊れては、二度手間になるので、私は除去したほうがよいと思います。

平川副委員長 木の株が何年もつと考えていますか。

工藤室長 石垣の際に生えていた木で、工事の支障になるものは何本か伐採しました。H 面の天端にある大きな杉の根は、オーバーハグした状態になっているので、遺構の保存も考えて検討したいと思います。
伐採した木がどれくらいで腐食するかは今お答えできませんが、石垣に係る根株は、観察を続けたいと思います。今回は災害復旧工事ですので、被災部分の復旧を第一の課題と考えています。

議長（岡田委員長） H 面に大きな杉がありました。その西の方に少し小さめ木がありましたが、それらも同じような課題ですか。

工藤室長 今回の工事で、将来的に空洞化するものは極力取りたいのですが、土に入っている根を取り除くことは難しいと思います。それらについては、経過観察をして対応したいと考えています。

平川副委員長 根を取ることは、復旧工事には入らないと考えるのですか。

工藤室長 工事の石垣背後の裏込の解体範囲に入っているものは対象にしますが、解体範囲外まで根がもぐっていくものは、考えていません。

平川副委員長 根が腐食して空洞化するまで、何年もつのかということです。いずれそうなるに分かっているなら、しっかりした状態に復旧することが今回の工事の大事な点だと思います。

工藤室長 資料1) - ①の図3には、番所に関係する可能性を有する石列があり、杉の根の下に続いていくと想定されるので、遺構の保存も十分に検討しながら、対応を考えたいと思います。

岡崎委員 H面で伐採された2本の切り株から、すでに葉がたくさん出ています。大きな木も、樹齢70年と言われましたので、こうした切り株もあつという間に成長し、石垣を壊していく可能性があると思います。災害復旧ということですが、西門の形や石垣をこの先も残すための方策も考えるべきだと思います。

議長（岡田委員長） E面でも、大きな木の根から新芽が出ています。

工藤室長 昨年、本丸北西石垣のE面で工事支障木として伐採した木から芽が出ている状況です。根を撤去するには、石垣の新たな解体が必要になります。木として成長しないように管理したいと思います。

議長（岡田委員長） H面の大きい杉の根が、石列を壊すという可能性も分かります。残しておいて枯れずに成長していくことも考えられ、将来的に悪い方向に影響する可能性もあります。一方、根を取ることによって、残っていた遺構を取り外すことにもなり、難しい課題だと思います。

天野技術主幹 私の方で持ち返って、白崎や文化庁で事例があればいい対策や方法をお伝えしたいと思います。

平川委員 図3にある株と根は、明治以降に植えられているということなので、むしろ石垣を元の状態にするため、取るという考え方もできます。危険物を含んだまま、石垣を管理するというリスクをどう考えるかです。石列の問題ありますが、いずれ根が伸び、枯れれば腐食して沈下し、対応しなければならなくなる。リスクをはらんで対応を先延ばしにするか、今の段階で元の姿にするかの判断です。

工藤室長 詰門脇で同じように石垣の際に生えていたモミの木があり、根が石垣を抱くようにして生えていましたが、これについては、整備委

員会で根元から切らず、木の上部の枝打ちをして風の影響を減らし、管理することになりました。西門周辺の木は、ご意見をもとに、対応を検討することでご了解いただければと思います。

議長（岡田委員長） 天野技術主幹も確認するということでしたので、連絡を取り合って、いい方向にいけるようにお願いします。

2. 本丸北西石垣について

議長（岡田委員長） 報告2の本丸北西石垣について、お願い致します。

文化財課渡部主査より説明

（質疑応答）

議長（岡田委員長） 本丸北西石垣についてご意見、ご質問をお願い致します。
GH面の隅角は、上端の2石を立ち上げ、HI面の隅角の方はそうしないということですか。

渡部主査 写真を見るとそうなります。ただ、非対称だとH面を正面から見たときに違和感があるので、北野先生や整備委員会の田中先生に相談をして、検討したいと思います。

議長（岡田委員長） G面は図44でも、はっきり上端の2石立ち上がって見えます。この写真でもHI面は見ようによっては、立ち上がっている。

渡部主査 図45の写真は、本丸北壁の方向からI面を撮った写真です。私も非対称になるのは気にかかるので、見やすい写真を探します。

平川委員 報告2) - ③のK面について、角の上に大きな長方形の石が乗せられていますが、こういう例は他にありますか。

渡部主査 隅角の石なので、反対側にも大きな石があります。

平川委員 図14を見ると、大きい石の下に小さい石が積まれています。小さい石の上に大きい石を置くことは普通にありますか。

- 渡部主査 角部の見栄えを考えて、こうしていると思います。
- 藤澤委員 入角は普通の石で、出角部だと大きな石を使っているということですね。
- 平川委員 このように積まれたのは、昭和の修復のときですか。
- 渡部主査 元々このように積まれていたので、石も換えずにこのようにしたと思います。石に番号を付けているということは、もともとあった石を同じ場所に戻すという行為をしていると思います。この隅角石には番号がなかったので江戸期に積んだと思います。
- 議長（岡田委員長） 先ほどの説明だと、この部分が非常に不安定ということでした。
- 渡部主査 不安定と説明したのは、玉石の積まれた部分です。昭和の積み直しの際の仕事の可能性があります。大きな石の後ろ側に玉石があり、その脇に四角い石が斜めに置かれている状況は、不安定であると思います。整備委員会でご了解をいただければ、この下に四角い石を入れて積むことも考えています。
- 平川委員 整備委員会の意見はどうですか。
- 渡部主査 整備委員会には、今後お聞きします。調査指導委員会に調査成果を報告し、その意見を踏まえて整備委員会に相談いたします。
- 議長（岡田委員長） 積み直しの際に、新たな石を入れるということですか。
- 渡部主査 玉石のところに新たな石を入れる方法がありますし、このままの状態に戻すこともあると思います。ご意見を踏まえて考えます。
- 平川委員 石垣の上端部ですが、不安定性や危険性があると考えられるのですか。
- 渡部主査 上の石が四角で、下の石が丸い石なので、石の接点を考えると、安定した状態にした方がいいと思います。
- 平川委員 下の玉石は、近代の積み直しの際に入れられた可能性があるのですか。それとも、もともとこうであった可能性があるのですか。

- 渡部主査 近代のときの積み直しの際の可能性が高いと思います。
- 平川委員 もとは切石のような四角い石が入っていたと考えるのですか。
- 渡部主査 今見える切石の下まで、土だった可能性もあります。
- 議長（岡田委員長） 整備委員会でも検討していただきたいと思います。
- 工藤室長 このままの復旧がいいか、切石のようなもので積み上げるのか北野先生や、整備委員会に相談しながら進めたいと思います。
- 平川委員 報告 2) - ⑥の敷金には、6 種類のタイプがあり A～C は江戸期、D～F は昭和の修復のものとの説明でした。A～C が江戸期に使われたと想定されていますが、享保と元文でのどちらの修復ですか。
- 渡部主査 改修のときに入れたのか、最初の積み上げのときに入れたのかも考える必要があります。本丸の北壁石垣の隅角は、寛文 8 年の地震以降に積み上げて、平成に初めて解体をして敷金が確認されたことを考えれば、敷金イコール改修ということではないと思います。
- 平川委員 本丸の北壁はどのように敷金が入っていたのですか。
- 藤澤委員 江戸期の本丸北壁石垣の敷金の使用は、角石がほとんどです。図 26 を見ると、角石以外の石積みのところにも大量に入っています。このようなやり方は江戸期とだいぶ違う印象を受けます。

3. 清水門跡について

文化財課渡部主査より説明

(質疑応答)

- 議長（岡田委員長） 清水門石垣についてご質問、ご意見をお願い致します。
解体は、隅角の部分だけですか。
- 渡部主査 新潟地震で解体・修復したと考えられる範囲を赤い線で示しましたが、この部分を中心の解体工事の範囲になると考えています。

議長（岡田委員長） その部分にコンクリートは、入っているのですか。

渡部主査 A面の方ではコンクリートの入った部分と少し重なりますので、コンクリートをはつりながらの解体作業になると思います。

議長（岡田委員長） 具体的な方向性は、これからの検討と思いますので、そのときにまた報告をお願いいたします。

4. 追廻地区の発掘調査について

文化財課佐藤主査より説明

(質疑応答)

議長（岡田委員長） 追廻地区の発掘調査ならびに片倉屋敷図の報告にご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。

藤澤委員 片倉屋敷図は、裏書の理解がかなり難しいと思います。並間は 6 尺 5 寸で考えていいのですか。

佐藤主査 幕末期であれば、6 尺程度と考えています。3つの主要な建物以外は、間尺の狭い建物になっています。

藤澤委員 183号土坑の南東側の廃棄土坑とした遺構だと思いますが、確認面で炭がたくさん入っている中に貝殻も混じっていたと思います。貝殻であれば、火災の片付けじゃなくて日常的な残菜を捨てた穴と考えられます。

佐藤主査 廃棄土坑群としていますが、時代差や規模も様々です。すべてが火災に関するものとは考えていません。重複関係も調べながら、掘り込んでそこから何が出てくるかも調べ、貝が出ているということであれば、日常的な残菜の捨て場の可能性も考えたいと思います。なお、この土坑以外にも小さな2枚貝が出ているところもあります。

藤澤委員 屋敷跡の調査を観察すると、二の丸もですが、日常の残菜を捨てるのはかなり裏手で、だいたいは台所の裏の隅がほとんどです。火災の片付けも同じような区域を使ったのかもしれませんが、もともとごみ穴を掘っていた場所が南側に偏っていたと考えられます。

佐藤主査 片倉屋敷の南端部が台所になっています。さらに南側に行きますと、厩や屋敷境界近くになりますので、藤澤先生のお考えのように、裏手にあたる場所になるかもしれません。

平川委員長 弘化の火事の後、建物は建てられていないのですか。

佐藤主査 再建されています。嘉永2年に屋敷が完成する少し前に13代藩主の義邦が立ち寄りという言葉で記録に残っています。その後に完成したという記録もあります。したがって、資料4) - ⑧の御成図は、火災後の姿だと考えられます。正確性の問題はありますが、概ねこういう姿で再建していると考えられます。

議長（岡田委員長） 次年度は、さらに南側を調査するという事ですね。

佐藤主査 屋敷図の南に太く書かれた井戸が1基ありますが、これや馬小屋付近にあたると考えられますが、屋敷の境までには至りません。

5. 若林城跡の発掘調査について

議長（岡田委員長） 若林城跡の発掘調査について、ご報告をお願い致します。

文化財課佐藤主査より説明

(質疑応答)

議長（岡田委員長） 若林城跡の発掘調査の報告についてご意見、ご質問ありますか。

藤澤委員 15号掘立柱建物が腰掛の可能性について否定的な理由は何ですか。

佐藤主査 腰掛というと、かなり限定的になるのでもそこまでは限定しませんでした。入り口近くの掘立式でもかまわない施設と考えています。仙台城の二の丸では腰掛も礎石立ちですか。

藤澤委員 礎石立ちにはなりません。幕末まで、中奥の塀の横はすべて掘立柱です。おそらく、塀が掘立柱で何度も作り変えられ、それに伴って腰掛も頻繁に作り変えられていると思います。腰掛は、細長い建物になるので、礎石だと構造的に弱いと思います。簡素で、一間あるか

ないかの幅で、その半分がベンチ、もう半分が土間になっています。
15号掘立柱建物跡はしっかりした柱なので、むしろ塀の方がふさわしいと思いましたが、位置的には腰掛でもおかしくないと考えます。

天野技術主幹 来年も調査するとのことですが、その後の調査予定はありますか。

佐藤主査 最近、宮城刑務所から具体的な計画の提示がありません。年次計画の図面は、以前に提出されたものでは、現在調査を行っている北舎と同じ規模のものが南側にも建つ予定です。今回と同じ形の建物ができるので、南側の調査依頼があると思います。

天野技術主幹 ここは特例扱いをしている遺跡です。特例とは、近い将来別な場所に移転するというのを条件に遺構を保存すれば、建物を建てるのはやむを得ないということです。その判断をしたのは平成16年だったと思います。10年ぐらい経過していますが、まだ移転するのか見通しがついていません。10年過ぎたので、もう一度宮城刑務所の意思を確認する必要があると思います。このままではなし崩しになる可能性があります。他の事業者にとって、不公平な扱いにならないようにしたいと思います。計画について文化庁にも確認する必要があると感じています。

工藤室長 宮城県と仙台市と法務省、文化庁とでの確認書がありますので、県の文化財保護課と相談し、どう対応するか検討したいと思います。

6 閉会

(1) 議事の終了

議長（岡田委員長） それでは本日の委員会の議事は終了と致します。

(2) オブザーバーのコメント

天野技術主幹 特にありませんが、委員会では、仙台城跡等の今後の予定が分かる計画図のような資料を用意していただくようお願いいたします。

(3) 閉会あいさつ

文化財課長 いろいろとご指摘があった件につきまして、今後の調査および復旧工事にあたって検討しながら進めていきたいと思っております。今日は、ありがとうございました。